平島さくらねこTNRプロジェクト

実施報告書

2021年度



主 催:公益財団法人どうぶつ基金

申請者: 鹿児島県十島村

会 場:平島小中学校体育館

鹿児島県鹿児島郡十島村大字平島120番地

間:2021年11月29日~12月3日 期

平島(十島村)

※十島村役場公式サイトより





スケジュール

doubutukikin

日付	時間	
11/29	23:00~	PCR検査や検温を済ませ、平島へ向け出発 (船中泊)
11/30	8:00頃 9:10~ 17:00 夜間	平島着、会場へ移動。 顔合わせ・自己紹介のあと手術室設営 手術開始 手術終了 定期的に猫の見守り
12/1	8:45~ 9:00 15:00 16:00 17:00 夜間	朝礼、持ち場についての説明 獣医による手術後の猫の確認後、猫をリターン 手術開始 児童や島民を招いて「いのちの授業」 「いのちの授業」終了 手術終了、終礼 定期的に猫の見守り
12/2	9:00	獣医による手術後の猫の確認後、猫をリターン
12/3	8:25頃	平島発



申請事業の背景・必要性及び目的

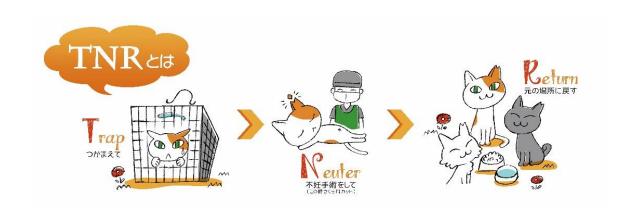
島内の2世帯が猫を飼っており、それぞれ約30頭に毎日餌を与えている状況。

一方は室内には入らず、猫は住宅前の道路や近隣で各々過ごしている。もう一方は住宅のすぐ横に小中学校があり、学校敷地内に猫が出入りしている。 どちらも数年前から 「猫がお腹を空かせているから」と餌をあげはじめたが、 どんどん増え続け、収拾がつかなくなっている。

生まれた子猫が縄張り外の成猫に殺されてしまうこともあり、住民は憤りを感じつつも、数が多くなりすぎて手が回らず、どうしていいかわからないとのこと。

島内に動物病院はなく、動物病院のある鹿児島市まで、週にたった2便の定期船で約9時間20分。現在、有志によって毎月3~5頭程度を搬出して不妊手術を行っているが、猫が増えるスピードに追い付いていない。

このままではさらに状況が悪化することが予想され、早急な対応が必要である。



ボランティア数 25人(最大時)



行政職員が11月27日より平島に入り、現地ボランティアと協力して事前に猫の捕獲作業に着手。近隣住民へ捕獲器の設置について周知し、猫が捕獲された際に連絡が入る体制もできていました。

猫は、行政の公用車やボランティアが手配した車両を使って、手術会場やリターンする場所まで運搬します。

手術場所に到着したら、猫の特徴 を確認したり、体重を計ったりといっ た個体管理に取り掛かります。





出張手術は、ボランティアの協力がなくては成功しません。

手術会場には、行政職員2名、地元ボランティア10名が参加。毛刈りなど手術前に必要な準備をはじめ、術後の猫の見回り、猫たちのご飯の準備、使用済みケージの洗浄や翌日の捕獲の準備、そして、最終日の会場の後片付けまで、多くの方のご協力をいただきました。







「いのちの授業」に参加した平島小中学校の児童・生徒たちと

今回、出張手術の会場となったのは平島小中学校の体育館。学校の休憩時間には、いつも可愛がっている猫たちを心配して子どもたちが手術会場に様子を見に来ていました。

出張手術は、命の大切さや人と動物の共生について学ぶ絶好の機会です。そこで、子どもたちや先生方、島民の方をお招きして、2日目に「いのちの授業」を開催しました。



子どもたちの感想を一部ご紹介します。

- TNRや生まれたばかりの子猫が多く殺処分されてしまい、たくさんの大切な命が奪われていることをこれまで知りませんでした。
- 自分たちのことだけではなく、島や島の生きものと共に生きるということも考え、今回 の増えすぎた猫のようにならないよう、私たち一人ひとりが考えるということを意識して いきたいです。
- 猫が少なくなるのは少し淋しいですが、悲しい思いをする猫が少なくなることがとても 嬉しいです。
- 縄張り争いでケガばかりしていた「しんぼう」や「チューブ」には穏やかに過ごしてほしい。妊娠と子育てを繰り返していた「ユキ」や「ミニぼう」には体をゆっくり休めてほしい。※「しんぼう」「チューブ」「ユキ」「ミニぼう」は猫の名前。
- 獣医という仕事がどのような仕事なのか知ることができました。あらためて大切な仕事だと思い、少し興味を持ちました。

いのちの授業

doubutukikin



TNRについて説明したあと、TNRの 全工程(捕獲~手術~リターン)を 見学してもらいました。

子どもたちはもちろん、先生方や島民 の方も、実際に麻酔をかけるところや 手術の様子を見るのは初めてだったと 思います。

子どもたちの真剣な眼差しを見て、彼らにとって身近な存在である猫を通して、命について考える貴重な体験を提供することができたと感じました。



手術を終えて元気に走り去っていく猫を見守る子どもたち

手術数

	オス	メス	耳カットのみ	計
11月30日	22	26	0	48
12月1日	15	19	0	34

【捕獲数】82頭(うち21頭は十島村中之島で捕獲した猫)

【手術実施数】82頭 内訳:オス37頭、メス45頭(うち妊娠2頭)

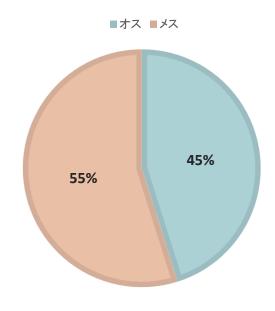
【死亡頭数】0頭 【堕胎数】3頭

処置内容

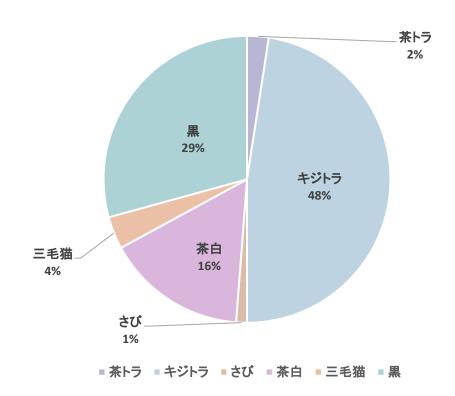
不妊手術(オス・メス)、3種混合ワクチン、補液、 ノミ・ダニ・回虫の駆除(レボリューション)、負傷治療など 【診療以外】耳先のV字カット(さくら耳)、爪切り、耳掃除、ブラッシング など



平島(十島村) 手術猫の性別



手術猫の毛色



どうぶつ基金 執刀医: 齊藤、佐藤





手術後の様子

手術の翌朝、猫たちの健康状態を確認して放します。平島小中学校のみんなもリターンに立ち会いました。手術を終えた猫たちが元気に走り去っていきます。





十島村での2度目の出張手術となりました。

平島の猫61頭に、2020年度に一斉TNRを実施した中之島で取り逃がしていた猫21頭をくわえた計82頭の猫が「さくらねこ」に生まれ変わりました。

離島では動物病院に行くにも物理的に大きな壁が立ちはだかります。そのような 状況のなかでも、十島村役場と地元の方は数頭ずつ懸命に不妊手術を継続し てきましたが、そのペースでは猫の繁殖スピードに追いつくはずがありません。

十島村役場は中之島での経験と反省点を活かし、住民に対して説明会を行い、 十分な理解と協力の確約を得たうえで申請。そのおかげで、全体的に非常にス ムーズに進みました。

中之島、平島での猫の問題は解決に向かいましたが、十島村にはこの2島以外に有人島が5つあります。そして、それぞれが猫に関する課題を抱えているとのこと。すべての島で「TNRによる人と猫の共生」が実現できるよう、今後もできる限りの協力をしていきたいと思います。



doubutukikin



公益財団法人どうぶつ基金

十島村役場の皆様

平島ボランティアの皆様